

第 58 号

平成 27 年 3 月 19 日

編集発行
足立区青少年委員会
広 報 部
足立区教育委員会
青 少 年 課

足立区青少年委員会だより



区の花：チューリップ

あだち



青少年委員ここにあれ



足立区青少年委員会副会長

栗田 泰夫

足立区青少年委員会は二十五年度に青少年委員制度六十周年を迎え、二十六年度は今までに培われましたものをベースに更新するページを創り出す元年と捉えスタートしました。

『社会教育の充実』のテーマの下

一、個人活動の充実

二、ブロック活動の充実

三、全体活動の活性化

と、大きく三つに絞り青少年委員としての活動を整理し、青少年委員の在り方を問うてきました。

子どもたちをとり巻く環境は様々です。

特に「子どもの貧困」という問題には、少しずつ支援などの取り組みも行われてきているようです。青少年委員として、足立の子どもたちに『たくましく生き抜く力を育む』お手伝いができたらよいと思っています。

そのためには青少年委員活動により、意識を高く持ち、知識の向上に努め、多岐にわたる問題に向き合うことが必要であり責務と考えます。

青少年委員は大変ではあるがやり甲斐のある役職である、と信じています。

子どもたちからのメッセージ
「鹿浜すこやか
ネットワーク」

第十二ブロック 笠原 昌俊

九月二十七日、鹿浜西小学校において、第二〇回鹿浜すこやかネットワークが開催されました。当日は、花岡教育委員長はじめ多くのご来賓をお迎えし、三百名もの参加者子どもたちの登壇を待ちました。

今回のテーマは「言葉が持つ力」

九人の各校代表者それぞれが、

○言葉によって傷つけたことや励まされたこと

○思いもよらず人を傷つけてしまったこと

○挨拶ひとつで前向きになれたり、友人関係が広がっていった体験から、言葉の使い方をよく考え大事にしていること

など、自分の言葉で訴えかけてくれました。さらに発展して、自ら、言葉の力で人と人をつなぎ、子どもたち自身の未来や周囲の人たちへと思いは広がり、言葉という美しい糸を紡いでいるようでした。

発表後、保護者の方々から「言葉の持つ力の大きさ、重さをあらためて感じ、毎日何気なく使う言葉について考えさせられた」「子どもたち

は大人が考えている以上に深く考えていることを初めて知り感動した」「年に一度思いを新たにするとして続けてほしい」など多くの感想が寄せられました。

ぜひ今後もこの会を継続し、子どもたちの熱いメッセージを多くの方々に受け取っていただきたいと思えます。他の地域においても、このような取り組みが広がっていくことを願っています。

開催にあたり各校の先生方、地域の皆様にご尽力いただきましたことに感謝申し上げます。



ブロック活性化事業

千住音楽祭

広報部副部長 田中 実

十一月二十四日、第一中学校体育館において第一ブロック主催の千住音楽祭が開催されました。当日は、連休中にもかかわらず参加児童生徒を合わせると五百名を超える参加で、会場は熱気に包まれました。千寿双葉、千寿桜、千寿本町小学校、千寿青葉、第一中学校の演奏は、日頃の練習の成果が実り、来場者から大きな拍手が贈られました。ゲストの東京藝術大学、青柳呂武氏と東京口笛



団の口笛だけの合奏にも感動しました。この音楽祭を通して千住地区の学校が連携し、開催の目的とする地域の音楽力の向上と環境整備の繋がりが達成できたと感じました。





教育委員との懇談会

青少年委員会副会長 川下 勝利

十月十四日に足立区教育委員と青少年委員との懇談会が行われました。学校を支援する青少年委員が、教育委員の方々がどのような意見をお持ちなのか知っている人が少ないとの意見から、青少年委員会からの呼びかけで実現したものです。教育委員会からは、花岡委員長、桑原委員、小川委員、青木教育長の四名の方に参加していただきました。せっかくの機会なので、少人数で懇談ができるように、各ブロックから二名が参加しました。



開会后すぐに、四グループに分かれ「各ブロックの教育懇談会」をテーマに懇談を行いました。話し合いは、テーマに縛られることなく盛り上がり、学校選択制、PTAや開かれた学校づくり協議会の活動、地域との関わりなど多岐にわたりました。また、学校運営や学力向上の話題では、教育委員の方々の意見や考えを聞かせていただく良い機会となりました。

教育委員というと、ともすると雲の上の存在と思いがちでしたが、教育に掛ける真摯な思いを持っていらっしゃる事を知る懇談会となりました。

青少年委員会日帰り研修会

広報部副部長 田中 実

十二月十三日、日帰り研修会が西新井大師で開催されました。まずは大本堂で護摩を奉修、地名の由来にもなった井戸をはじめ、三匠堂、鐘楼、山門など境内を案内していただきました。大書院では酒井静仁執事の法話を伺うことができました。その後、会場を移動して子ども家庭部長三橋雄彦氏に「少子化への取り組み」をテーマに講演をしていただきました。

区内屈指の史跡には歴史秘話が溢



れていて、古くから「厄除大師」として信仰を集め、親しまれていたことを改めて思いました。



成人の日の集い

東京武道館：平成27年1月12日(月・祝)

参加者：3,946人

区内新成人 6,401人
(男性 3,275人 女性 3,126人)

実行委員氏名
桑原 弘
小林 太朗
齋藤 紫乃
渡邊 拓哉
吉川 瑛里子
吉野 麻里絵
(順不同・敬称略)



成人の日の集い

実行委員を経験して

成人の日の集い実行委員

吉川 瑛里子

一生に一度の記念となる成人の日の集いに、実行委員として参加できたことを誇りに思います。実行委員の活動を通して、仲間との繋がりをはじめ人や地域などたくさんの方の繋がりを感しました。三千九百四十六名が参加した今年の成人の日の集いは、「繋がる」と、人と、社会と、そして未来へ」というテーマに相応しい素晴らしい式となりました。

これまでの実行委員会を含め記憶に残る式を迎えることができたのは、企画・運営に携わってくださった皆様の支えがあったからです。心より感謝申し上げます。

社会の一員となった私たちですが、大人としての自覚だけでなく若い世代の純粋な気持ちも忘れません。人との繋がり、社会との繋がりを大切に、足立区の明るい未来に繋がっていくよう努力していきます。

新成人の皆さんへ

青少年委員会副会長

下川 佐智子

足立区では、一月十二日「成人の日の集い」が開催され、六千四百一人の若者が大人の仲間入りをしました。

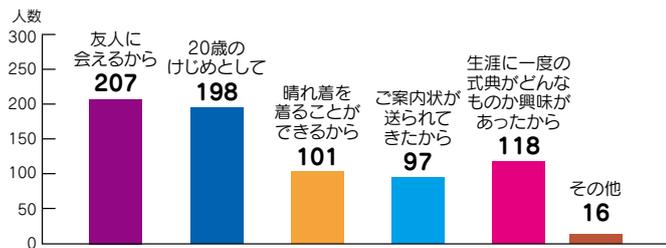
綾瀬の東京武道館には62%にあたる三千九百四十六人の参加がありました。

広報部の新成人へのアンケート調査で、十年後は何をしているかの問いに、「働いている・仕事をしている」「結婚して家庭を持つている・子育てをしている」の回答が多い中で、「仕事をして家庭を築く」という回答も見受けられました。

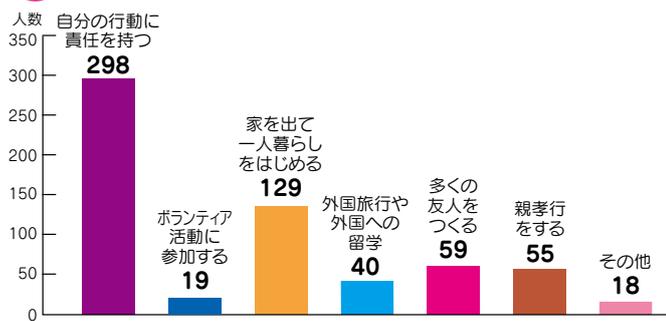
新成人も十年後は三十歳。たくましく、優しい心で、生き抜いていってください。これからの社会を担う新成人の若い力に期待しています。



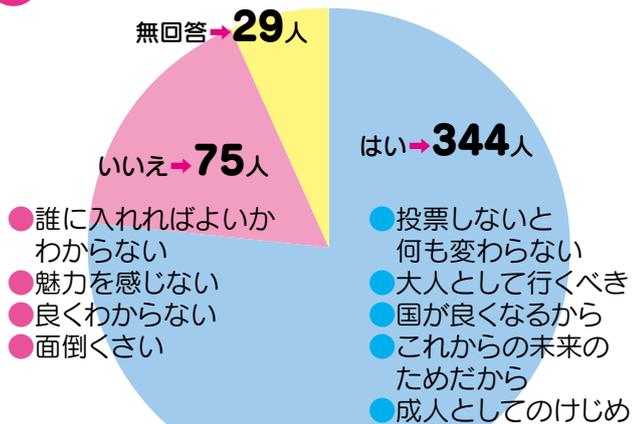
1 成人式に参加された理由をお聞かせください



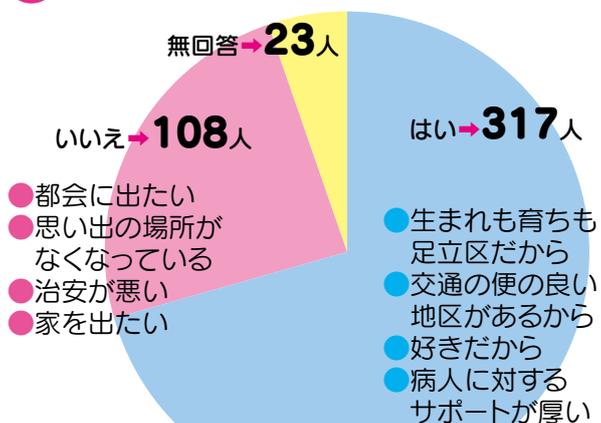
2 20歳の抱負は？



3 選挙があったら投票に行きますか？



4 これからも足立区に住みたいと思いますか？



成人の日の集いアンケートより

アンケート集計結果(複数回答あり)

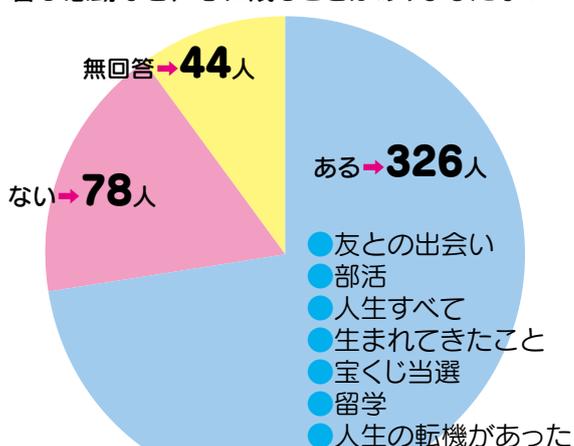
アンケート回答数		職業	人数	%
男性	189人	勤労者	121人	27.6%
女性	259人	学生	299人	68.1%
合計	448人	その他	11人	2.5%
		無回答	17人	3.9%



あなたの10年後

- 仕事に専念している
- プロの声優
- 幸せに暮らしている
- バリバリと働くキャリアウーマン
- 子どもがいると思う
- 環境に関する仕事に就いている
- 音楽と共存
- 世界を変える
- 社長
- 結婚
- 玉の輿に乗る
- 公務員
- 未来は読めない
- ロックしている
- 保育士
- デザイナー

5 あなたのこれまでの人生のなかで、喜び感動など、心に残ることはありましたか？



笑顔の「あだち区民まつり」

広報部 遠山 辰雄

懸念された台風も速力を緩め、秋晴れの下、二日間の「あだち区民まつり」も無事、大盛況で終了。スタッフ初心者の方は、ミニS.Lの安全管理の任務に就かせて頂きました。

機関車の到着を待つ長蛇の列。トンネルを抜けて一周して戻ってくると瞳を輝かせて「楽しかった」「ありがとう」

そこには笑顔が満ち溢れ、足立区の明るい未来を見る思いがしました。

『菊作り 花見る人に 作る人』

子どもの笑顔は大人を笑顔にし、来場者の笑顔はスタッフを笑顔にします。各部署のスタッフの陰の労苦有つてこそその祭典と心から実感。力一杯走ってくれた機関車をトラックに載せて任務終了。油の染みた軍手は勲章です。

足立区を笑顔の花でいっぱいにする事業に、今後とも積極的に参加して参りたいと、心新たに二日間でした。



足立区社会福祉協議会へ 寄付しました。

- ミニS.L運行収入の一部
三万円
- 円玉アート制作全額
二万五千四百三十三円

足立区立第十中学校 ドミノ大会

広報部 砂田 健二

十一中では今年も、『おやじも会』主催の『おやじもサマードミノ』が八月九日に開催されました。

今年は参加した生徒の数も百人を超え、美術部の生徒を中心にグループでミニチュメントを一つ作り、暑い中協力し合いながらドミノを並べました。

途中、昼食にはお母さん方が作ってくれたカレーを食べ、息抜きにスイカ割りを楽しみ、夕方五時にカウントダウンして倒しました。

今年はドミノの数も五万個に増やし、ミニチュメントの数も増えているので、去年より一層見応えのあるドミノだったと思います。



倒し終わった後は『おやじも会』のお父さん方が作ってくれた焼きそばを食べ、最後には校庭での花火大会で終わりました。

今、花火をする場所も機会もないせいか、スイカ割りと花火は子ども達も喜んでいました。

『おやじも会』岡本会長は、「スイカ割りや花火など、中学生になると行う機会もなくなった夏の遊びに触れることで、小さい子どもの頃にかえって楽しめたのではないかと思えます」と、楽しむ姿を見て喜んでいました。

江北小学校百四十周年

第二ブロック 矢口 悦道

「たたみの教室わらの屋根 明治七年の学校は 田んぼの中の寺小屋だった。」(九十周年をたたる歌)

平成二十六年十一月二十九日大安吉日、足立区立江北小学校は創立百四十周年記念式典・祝賀会を多数のご来賓のご出席を賜り挙行いたしました。

当日は雨が降るのは想定しておりましたが、受付が始まる直前から雨が降りだし校庭が予想外の雨量でぬかるんで、校庭に設置したテントが使えず、急遽校舎内に受付場所を移し替える事から始まりました。

記念式典では、学校長式辞に続き、主催者を代表して、清水幸藏実行委員長(小P連顧問・けやきの会会長)のご挨拶の後、ご来賓を代表し、足立区長、足立区議会議長より期待を込めた温かい祝辞を頂戴いたしました。記念品贈呈、感謝状贈呈と続き記念式典は無事終了いたしました。祝賀会までの間に、この日のために一生懸命毎日練習してきた六年生のコーラス・金管バンドの合唱・演奏を披露してご来会の皆様から温か

い拍手を貰いました。

祝賀会は「みのがやばやし」の披露で皆様をお迎えしました。

主催者挨拶の後、教育委員会委員長職務代理人・桑原勉様ほかの皆様からご来賓の祝辞を戴きました。

鏡開き、乾杯の前に江戸消防記念会・第十一区五番組より木遣り・纏が披露され、拍手喝采を浴びました。スピーチも百二十周年・百三十年の時の歴代校長が思い出を語り歴史の流れを感じました。

アトラクションは「獅子舞い」が披露され、おめでたい席に花を添えました。

閉会の辞の後、実行委員全員でご来会の皆様を見送り名残惜しい中、幕を下ろしました。

実行委員は「記録に残る、手作りの式典」を目標に会議を幾度となく開催し進捗状況も芳しくない時もありましたが、終了したときの達成感、皆、顔が綻んでいました。



平成26年度 区立学校周年記念式典実施校

江北小学校	140周年
梅島第二小学校	70周年
北三谷小学校	60周年
西新井第二小学校	50周年
千寿双葉小学校	10周年
西新井中学校	40周年
千寿桜堤中学校	10周年



優勝 中学校の部 六月中学校



優勝 小学校の部 竹の塚小学校

青少年委員が運営協力している「第六回あだち子ども百人一首大会」が、平成二十七年三月七日に島根小学校体育館に於いて、開催されました。

第六回 あだち子ども百人一首大会

研修部の活動

研修部副部長 緑川 勝彦

平成26年度の研修部の主な事業は、5月27日開催の新任研修会にてスタートを切りました。

7月15日には全体研修会が開催され、鈴木一夫教育次長から基礎学力定着の取組みの必要性等について伺いました。

10月28日には、東京未来大学こどもみらい園で部会を開催しました。この施設は、発達に悩みを抱える2歳から小学6年生までの子どもたちの、イノベーションスクールです。平成26年7月に開園したもので、他の委員の皆さんにも見ていただきたい施設でした。

12月13日の日帰り研修会は、従来型のバス研修旅行とはひと味違う試みで開催しました。

2月24日には、今年度最後となる全体研修会を、講師に阿部泰尚氏をお迎えして「いじめの実態と対策」について、ご講演をいただきました。

今後も研修部は、全部員が協力して青少年委員一人ひとりの見聞を広め、委員活動の一助になる企画立案をしております。



事業部の活動

事業部長 松崎 顕治

事業部は春先よりしっかりと計画のもと、確実に活動しております。

秋に行われました「あだち区民まつり」では、参加にむけて昨年度の反省等からの改善点などを生かして準備を進めてまいりました。

ミニSLでは、チケット売り場をわかりやすくする・安全な乗降指示等、ウォーターコインでは、成功者に鐘を鳴らす等、一円玉アートでは、4枚のアート画を用意していただいて積極的にアート画作製協力のお願いの声かけ等を行う等、それぞれのブースで担当委員の皆さんの積極的な参加で良い活動ができたと感じました。

その結果として、各ブースで過去最高の参加人数や寄付金額を記録したのは、本当に素晴らしい結果だと思います。

青少年委員会全体としても、延べ100人を超える参加人数のもと活動できた事も非常に喜ばしい結果でした。

「あだち区民まつり」参加終了後は、今年度の若干の反省点も確認し、その改善点などが出されておりますので、来年度にむけての準備も進めていきます。

最後に事業部の大きな柱の活動『年中行事・記念日を大切にしよう』では、3月の『桃の節句』が最後の行事となりましたが、アトリウムの飾り付け、ポスターを作製し各小中学校に配る作業にも丁寧に取り組みました。

編集後記

広報部では、青少年委員会の活動や情報をより多く正確にお伝えするよう、誌面作りに取り組んでまいりました。

今号も、毎年恒例の事業・行事の取材の他に、「鹿浜すこやかネットワーク」「千住音楽祭」取材も含め、盛り沢山の報告が出来たのではないかと考えております。

部員の皆さんの頑張りや、取材に協力いただいた皆様に感謝申し上げます。

これからも、新たに立ち上がるホームページ担当の委員の皆さんとも協力し、より多くの情報を発信して行きたいと思っております。委員の方々にも更なるご意見をいただけますよう、お願いいたします。

広報部長 下島 利代

青少年委員会では4月から、ホームページを開設いたします。アドレスは、<http://adachi-seishounen.jp>です。